

組織活性化・人材育成 シンポジウム

参加のお勧め

経営や事業を取り巻く環境変化のスピードが増し競争が激化する中、企業が更なる成長を実現していく上で、人材が持つ重要性は以前とは比較にならないほど高まっています。

特に、中核を担ってきた団塊世代の退職にともない、企業にとっていかに人を育成し有能な人材を増やしていくかが喫緊の課題となっています。

こうした状況の下、各企業は限られた条件の中で効果的な人材育成を行い、企業戦略と社員各人の「やる気」「やりがい」「目標」等を一致させ、モチベーションの高い集団へと変革していくことが重要となってきました。

各企業におかれましては、人材育成の手段や方法に苦慮され、結果として現状維持に留まっているケースも少なくないと思われます。

この度、中国地区品質経営協会では、モノづくりのための人材育成にフォーカスし、「技術・技能の継承」「組織活性化」といった品質の基本となる人間行動の質的向上について、企業の事例から学ぶことを目的としてシンポジウムを企画いたしました。

まず、“ひとり一人が自ら問題を感じ、自ら解決できる力を高めよう！小集団活動(GUTS)の推進事例”と題しまして、グローリー株式会社の 名倉 三加代 様にご講演いただきます。

次に、“モノづくりは人づくりから マツダ(株)本社工場の取り組み”と題しまして、マツダ株式会社の 藤尾 健治 様にご講演いただきます。

その後、“職場内コミュニケーションにおける「伝え方」について”と題しまして、広島大学の 奥居 正樹 様に最近の研究成果をお話いただきます。

引き続き、参加者と講演者との総合質疑を行い、より実りあるシンポジウムにしたいと計画しておりますので、多数のご参加をお願い致します。

日時： 平成21年11月27日(金) 13:15～17:30

会場： 広島商工会議所 1階101会議室 (原爆ドーム前電停前)

広島市中区基町5-44 TEL(082)222-6610(代表)

主催： 中国地区品質経営協会

■ ひとり一人が自ら問題を感じ、自ら解決できる力を高めよう！小集団活動(GUTS)の推進事例

グローリー株式会社 品質・環境推進部 業務革新グループ アシスタントマネージャー 名倉 三加代 氏

グローリー株式会社は、お金を主体とした物や情報を正確かつ高速に認識・識別する製品の商品開発から、販売、アフターサービスまでを一貫して行う、世界でも類まれなオンリー・ワン企業です。

QCサークル活動をGUTS活動へ変革していった経緯や、設計技術・営業・保守部門等への展開など、改善活動を推進し活性化していく過程での苦労話や活動の仕組みについてご紹介します。

- 略歴 1982年 旧グローリー工業(株)入社。全社スタッフの品質管理部に所属。当時の主な担当は標準化(作業標準)、重要市場クレームの受付窓口、小集団活動(QCサークル活動)の推進。
- 1998年 同じく全社スタッフである技術推進部へ転籍。転籍後は小集団活動(GUTS活動)推進事務局専任として現在に至る。
- 2001年 QCサークル指導士(財;日本科学技術連盟認定)を取得。QCサークル近畿支部兵庫地区幹事に就く。
- 2003年 QCサークル上級指導士(財;日本科学技術連盟認定)を取得。
- 2004年 QCサークル本部指導員に就く。
- 2005年 QCサークル近畿支部兵庫地区 副幹事長に就任。
- 2006年 QCサークル近畿支部兵庫地区 幹事長に就任。
- 2008年 同幹事長任期満了にて同幹事に戻る。

日本科学技術連盟QCサークルリーダーコース運営委員に任命され、現在に至る。

■ モノづくりは人づくりから ～ マツダ(株)本社工場の取り組み ～

マツダ株式会社 本社工場 教育担当 藤尾 健治 氏

本社工場は広島地区全域でエンジン、ミッションなどのパワートレイン系製品からプレス・車体、塗装、車両組立までの一貫工場としてマツダ車の約半分の製造を担っています。

厳しい競争の中、生き残りをかけて「ストレート生産」の実現をめざし、従来からTPM活動を中心とした体質強化活動を進め、現在はそれを発展させた「星取り活動」を推進しています。

その中で将来の成長や新技術の導入、そして2007年問題、少子高齢化などの労働環境の変化を踏まえ人材育成、特に技能者の育成を重点に進めています。インフラの整備、一人ひとりにフォーカスしたランクアップ活動などの仕組みを構築し、試行錯誤しながら活動中です。

本講演ではこれらの仕組みや具体的な進め方などについて紹介します。

- 略歴 1974年3月 九州大学工学部卒業
- 1974年4月 マツダ株式会社入社(当時 東洋工業(株))
GE、DE、REのエンジン部品の加工、組立に携わる
- 1994年2月 第2技術員室 マネージャー
- 1997年11月 防府 中関工場 マネージャー
- 2001年4月 マツダ工業技術短期大学校 校長
- 2008年4月 本社工場 主管
- 2009年6月 定年後、継続して人材育成に従事

■ 職場内コミュニケーションにおける「伝え方」について

広島大学 奥居 正樹 氏

人材育成や組織活動の活性化をうまく展開する条件は様々考えられますが、その中の一つとして職場内でのコミュニケーションが適切に機能することが挙げられます。日本人は「同じ釜の飯を食う」ことによって組織の同質性を高め、「以心伝心」をはじめとした「ことば」に依存しない意思疎通を図ってきました。しかし、企業を取り巻く環境が激しく変化するなか、この同質性は多様性へと変化しつつあり、コミュニケーションの「伝え方」も変容しはじめています。そこで、職場内コミュニケーションにおける「伝え方」に焦点をあてた調査結果を報告いたします。

また、総合質疑応答では、各社の取り組みを支える「仕組み」について議論を進めてまいります。

- 略歴 1989年 日本電気(株)入社
- 2003年 日本電気(株)退社
愛媛大学 大学評価等情報収集分析室 助教授
- 2005年 広島大学大学院社会科学部研究科 准教授
- 現在に至る

■ コーディネーター紹介

広島工業大学 久保田 洋志 氏

略歴 1972年 広島工業大学 工学部 経営工学科講師
 1980年 広島工業大学 助教授
 1998年 広島工業大学 工学博士
 1999年 広島工業大学 工学部教授

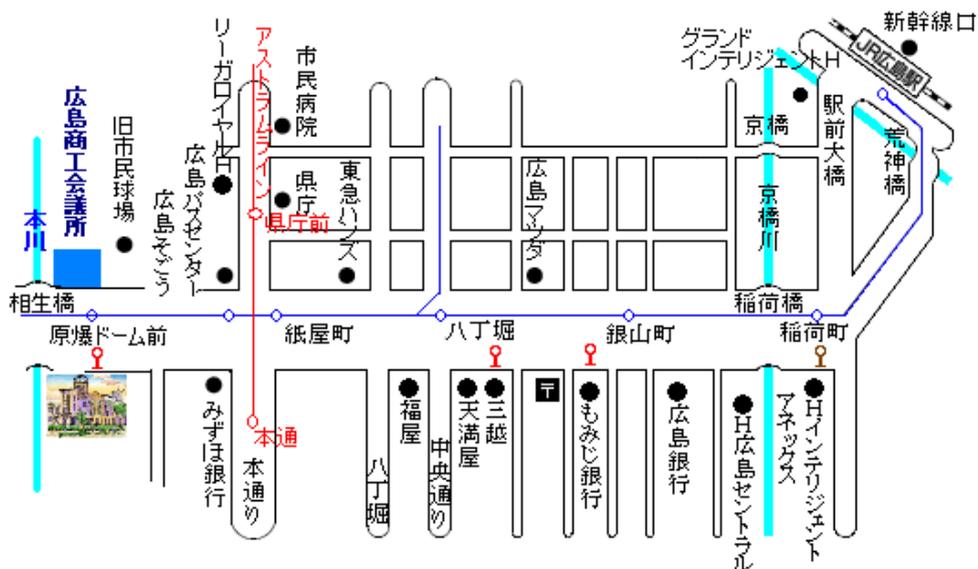
主な役職

日本情報経営学会常任理事、デミング賞委員、日本品質管理学会副会長、日本情報処理開発機構IT経営力総合指標委員会委員、中国地区品質経営協会運営委員長

■ プログラム

時間	内容
13:15~13:20	開会挨拶 中国地区品質経営協会
13:20~14:30	講演(1)ひとり一人が自ら問題を感じ、自ら解決できる力を高めよう！ 小集団活動(GUTS)の推進事例 グローリー(株) 品質・環境推進部 業務革新グループ アシスタントマネージャー 名倉 三加代 氏
14:30~14:40	－ 休憩(10分)－
14:40~15:50	講演(2)モノづくりは人づくりから ～マツダ(株) 本社工場の取り組み～ マツダ(株) 本社工場 教育担当 藤尾 健治 氏
15:50~16:05	－ 休憩(15分)－
16:05~17:25	研究レポート 職場内コミュニケーションにおける「伝え方」について 広島大学大学院 社会科学研究科 准教授 奥居 正樹 氏 総合質疑応答 コーディネーター 広島工業大学 工学部 教授 久保田 洋志 氏
17:25~17:30	閉会挨拶 中国地区品質経営協会

■ 会場案内



広島商工会議所 1階 101 会議室
 広島市中区基町5-44
 TEL (082) 222-6610(代表)

JR広島駅から電車またはバス
 ・バス停: 市民球場前 または 広島バスセンター
 ・電停: 広島電鉄 原爆ドーム前 ・アストラムライン: 県庁前

■ 参加要領

- 【定 員】 100名程度
- 【参 加 費】 会員会社無料(非会員会社 3,000円/一人)
- 【申込締切日】 平成21年11月18日 (水)
- 【申 込 方 法】 申込用紙に必要事項を記入のうえ、郵送、FAXまたはeメールで申込み下さい。

..... キリトリ



シンポジウム 「組織活性化・人材育成」 参加申込書

申込先 : 中国地区品質経営協会

TEL (082)532-6844 FAX (082)532-6845
 〒733-0011 広島市西区横川町3丁目5番9号 (世良ビル404号)
 e-mail; qmac@a1.mbn.or.jp URL; http://qmac.jp/

会社名	申込責任者:
	TEL:
住所(〒)	
参加者名	所属・役職
参加者 (計 名)	受付確認連絡 必要 ・ 不要
参加費 (計 円)	請求書発行 必要 ・ 不要

※ご記入頂いた企業・組織および個人情報は、参加申込受付処理並びに当協会からのセミナーや行事のご案内のために使用します。